

人文・社会系



正規雇用と非正規雇用の比較による 労働市場と社会階層との関係を実証的に解明

東北大学大学院文学研究科教授 佐藤 嘉倫

【研究の背景】

私たちは、社会階層と社会移動に関する全国調査(略称SSM調査)を1955年から10年毎に実施しています。

各回、中心となる研究テーマを設けており、第6回目の今回は、終身雇用制の弱化や非正規雇用の増大といった労働市場の流動性が社会階層や社会移動に及ぼす影響の解明を主要目的として実施しました。

その際、日本の状況を東アジアの文脈において考えるために、2005年に日韓台ではほぼ同じ調査票を用いた調査を行いました。

【研究の成果】

多くの研究者が参加した今回の総合的研究プロジェクトの研究成果は、全15巻の報告書(図1)にまとめられています。このうち、私は、正規雇用と非正規雇用の格差に関する調査研究を担当しました。

従来の階層研究では、女性パートタイム労働者を除いて、主に正規雇用労働者を対象としてきましたが、労働市場の流動性が高まる日本社会で、正規雇用と非正規雇用の格差は拡大していると言われていることから、このことを実証的に研究することとしました。

具体的には、両者の年収の違いを比較しましたが、非正規雇用には女性や若者が多いため、年収が低い可能性もあります。

そこで、性別や年齢を統計的に統制して、正規雇用と非正規雇用を比較したところ、前者は後者の2倍以上の年収があることが分かりました。

しかし、1995年と2005年を比較すると、この格差が少し変化していることも分かりました。

図2は、年収の規定要因の強さを1995年(左側)

と2005年(右側)で比較したものです。基準線(非正規雇用、男性)から離れていけば格差が大きくなっており、近づいていけば格差が小さくなっていることを示します。図から分かるように、正規雇用と非正規雇用、男性と女性の格差は小さくなっています。

【今後の展望】

格差問題は、マスコミや政治の場でホットな話題になっていて、かえって厳密な分析が困難になっています。上記の研究をさらに進めて、格差問題の学術的な解明とそれに基づいた政策提言をしていきたいと考えています。



図1

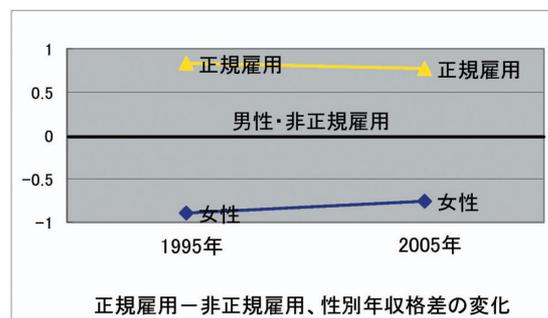


図2

【交付した科研費】

平成16-19年度 特別推進研究「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」